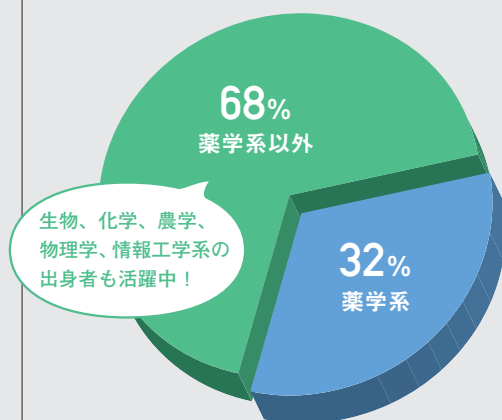


医薬系だけではない 医薬品開発の仕事

新興国の成長や高齢化の進行によって、世界的に拡大を続けている医薬品マーケット。その医薬品業界において、製薬会社のパートナーとして新薬の研究開発を支援しているのがCRO（医薬品開発業務受託機関）です。医薬品と聞いて、医学や薬学を専攻した学生ばかりが活躍しているのではないかと思われる方がいるかもしれませんが、実際は実に多様な専攻出身の理系人材がCRO業界で活躍しています。CRO業界における理系人材の活躍について、CRO企業3社の人事担当者から話を聞きました。

2016年4月に CROに新卒で入社した68%が 薬学系以外の理系出身者



生物、化学、農学、
物理学、情報工学系の
出身者も活躍中！

多種多様なプロジェクトに対応するため、薬学だけでなく
様々な分野の理系学生が採用されています。

2016年4月入社
薬学系以外68% (520名) / 薬学系32% (245名)
合計有効回答数17社
調査期間：2016年9月14日～10月14日

CRO

人事担当にきく

薬学以外の理系出身の方が 多く採用される理由に迫る

— CRO業界で医薬系以外の理系学生を
積極採用しているのはなぜでしょうか

中屋 医薬品開発というと薬学系のイメージが強いですが、実際のモニタリングやデータマネジメントといった仕事において、入社時点で医薬関連の専門資格が必要な訳ではありません。実際は専門を問わず幅広く理系学生が活躍できるフィールドがあり、当社では薬学系出身者が占める割合は3割程度となっています。

井上 薬学系出身の割合は当社も同じくらいですね。臨床試験やCROに対する認知が広がってきた結果、薬学系以外の理系学生にも注目されるようになってきました。

中田 先入観の問題ですね。仮説検証や論理的思考など、理系として培ってきた力は必ず活かれます。例えばデータ分析に関する業務であれば、薬学系以外の学生の方が力を発揮しやすい等、薬学部以上に適性がある学部・学科も多くあると感じています。

— 薬学系以外の理系学生は
どのように活躍しているのでしょうか

井上 あらゆる部署と仕事において様々なバックグラウンドの人が活躍しているので、個別の例を挙げるのは難しいくらいですね。モニターだけでなく、統計解析やシステム開発に関わりたという方がCRO業界のことを知り、実は自分のやりたいことができる業界だと知ったという例は数多くあります。

中田 それは当社でも同じですね。例えば、プログラミングはできるけれど、医薬品について学生時代には学んでこなかった。そんな人も実際に活躍しています。教育体制は各社充実しているので、必要な専門知識は入社後

様々な職種で理系の能力が活かせる

臨床開発モニタリング

治験依頼者と医師や実施医療機関関係者との情報交換を通じ、「法律や計画書通りに進んでいるか」「被験者さんの人権・安全・福祉が保護されているか」を確認・保証する業務。コミュニケーション力、スケジューリング力と、ゆくゆくは薬品に関する諸知識が必要になる。

【活躍している専攻】薬学以外に、生物、化学、農学、物理、獣医学など理系全般

データマネジメント

臨床試験により集積された症例データの入力・精査・修正を行い、データベース化していく一連の流れをマネジメントする業務と、情報工学等の知識をもとにデータを入力するシステムの開発、運用、カスタマイズを行う業務がある。コミュニケーション力とゆくゆくは薬品に関する諸知識が必要。

【活躍している専攻】薬学以外には、生物、化学、農学、物理、獣医学、情報工学系、数学など、理系全般

統計解析（生物統計）

生物統計学を用い、治験結果を解析。効果、安全性、副作用など、様々な観点から評価基準を数値化し、データを分析し、治験薬の有効性や安全性を統計学的に検証する業務。統計の知識や数学力が活かせる。

【活躍している専攻】統計学、数学、物理、管理工学など

臨床システム開発業務

臨床試験の現場である病院や製薬会社、モニタリング担当者をつなぐEDCシステム*などの臨床システムを開発・構築する業務。薬学等に加え、情報工学の知識も必要。【活躍している専攻】情報工学系、数学など

ファーマコヴィジランス

新薬の臨床試験から市販後まで、その安全性（副作用）に関する情報を薬事法等の規制に基づいて収集し、医薬品の安全性向上に貢献する仕事。【活躍している専攻】医学・薬学、生物、化学、農学、物理など理系全般

*EDCシステム…Electronic Data Captureシステムの略称で、治験実施時にデータ収集・管理を電子的に実施すること。パソコンで治験医師、または治験スタッフが症例データを登録し、そのデータをインターネット・専用回線経由で取得、データ管理を行う。

にキヤッチアップできます。

中屋 キャリアについて言えば、それこそ薬学系以外の出身者がリーダーや部長になっている例も多くあります。薬学のバックグラウンドの有無で差はつきません。

— CRO業界で働く魅力を教えてください

中屋 製薬会社ではなくても、医薬品の開発に携われるところ。特に近年では開発を受託する割合が増えているため、様々な領域の試験に関われる可能性も高まっています。

井上 社会貢献性の高さも大きいですね。ライフサイエンスは今後確実に成長するフィールドであり、最近では再生医療など、新しい分野にもどんどんチャレンジしています。5年後、10年後、思いもよらない魅力的な仕事が見つかるかもしれません。

中屋 事業展開の制限がないところも強みですね。高齢化社会で医療に注目が集まるのは確実であり、今後の医療ニーズに合わせて事業を展開できる点はCROの大きな特徴です。

中田 医薬品は日本だけで使われるものではありませんから、世界中から情報が入ってくるところも醍醐味のひとつです。グローバル案件も増えており、グローバル志向の人にもマッチしていますね。

中屋 今ではCROのビジネスモデルもしっかり定着し、臨床試験のプロフェッショナルとして医薬品開発に欠かせない存在にまで成長しました。私たちのプレゼンス自体も昔より高まっていると感じます。コンサルティングのサービスも増えていきますし、一緒に医薬品を作り上げている、まさに製薬会社にとって真のパートナーだと言えます。
井上 そうですね。私たちの役割は、決められたルール

CRO

CRO

に則って治験を行うだけではなく、開発戦略を念頭に置きながら、製薬会社が求める以上のものを常に提案していくことです。

中田 お二人が仰るとおり、CRO業界には様々なサービスがあり、職種も限定的ではありませんから、ライフプランにに応じて新しい仕事にもチャレンジできます。加えて、女性の割合が多い業界なので、女性が長く働き続ける場所としても環境は整っています。

井上 CROが、すべての理系学生に魅力的な選択肢のひとつだと、是非、この機会に知ってほしいですね。



CRO各社の採用担当者。お話を伺いしたのは前列の3名です。

【左】中屋昌宏（株式会社メディサイエンスプランニング）

【中央】井上一成（エイツヘルスケア株式会社） 【右】中田小由希（株式会社CACクロア）



もっと知りたい方は

「新薬、医療機器の開発にかかわる仕事研究セミナー（仮）」へ！
各職種の先輩社員も来場し、より仕事内容や理系との親和性について聞けます（2017年2月17日（金）予定。詳細はWebサイト「理系ナビ」へ！

詳細はWebサイト「理系ナビ」へ！